

平成 29 年度第 2 回仙台市協働まちづくり推進委員会（第 2 期第 7 回） 議事録

- 日 時：平成 29 年 9 月 12 日（火）19:00～20:45
- 場 所：仙台市役所本庁舎 2 階 第 2 委員会室
- 出席委員：風見正三委員長、大橋雄介副委員長、伊勢みゆき委員、小野みゆき委員、
佐々木秀之委員、島田福男委員、庄司真希委員、其田雅美委員、
高橋早苗委員、本郷一司委員
- 欠席委員：浜知美委員
- 事務局：市民局長、市民局次長、協働まちづくり推進部長、市民協働推進課長、
地域政策課長、広聴統計課長、市民活動サポートセンターセンター長、
協働推進係長、NPO 認証係長、他担当職員

○次第

1 開会

2 議事

- ・仙台市市民活動サポートセンターの機能強化について

3 その他

4 閉会

○会議内容

1 開会

[事務局（協働推進係長）]

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。ただいまから平成 29 年度第 2 回仙台市協働まちづくり推進委員会を開催いたします。議事に入ります前に当委員会の定足数を確認させていただきます。出席が過半数を超えておりますので、仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例施行規則第 4 条第 2 項の規定に基づきまして、会議は成立いたしますことをご報告申し上げます。

続きまして本日の資料の確認をさせていただきます。お手元には次第、資料 1「仙台市市民活動サポートセンターの機能強化について」、資料 1 別紙 1「仙台市市民活動サポートセンター機能強化 利用者等からの意見聴取について」、資料 1 別紙 2「市民活動サポートセンター機能強化 実施具体案」、資料番号はついておりませんが「マチノワ縁日」についてと書かれた資料、「マチノワ縁日」のパンフレット、「防災 3 イベント同時開催！」と書かれた世界防災フォーラム等のチラシ、以上をお配りしております。資料の不足はございませんでしょうか。それではここからの議事進行は風見委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

[風見委員長]

皆さん、こんばんは。今日はサポセンの機能強化の集中審議となります。前回いろいろな議論をいただいて、事務局にも頑張ってまとめていただいております。現実的に予算の問題もありますし、前回いろいろな提案がありましたが、構造上の問題や設備の問題もあるかと思えます。ただ公費を使うわけですので、アカウンタビリティ、説明責任と言いますか、我々が審議会としていいものをつくるのが役目です。今日の議論を踏まえて、いよいよ発注業務に入っていくこととなりますので、今日はいろいろな議論をいただきながら、落としどころを考えていただくことになろうかと思えます。

ここで決めたことが関係案件の予算に反映されると思いますが、年度内には完成するということですので、これまでもいろいろご審議いただきましたが、今日はとても大事な会だと思えます。サポセンがどういうふう生まれ変わるか、今日は議論をしていければと思えます。よろしくお願いいたします。それでは早速議事に入ります。議事録署名人は五十音順ということで、其田委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

2 議事

仙台市市民活動サポートセンターの機能強化について

[風見委員長]

それでは議題に入ります。仙台市市民活動サポートセンターの機能強化についてということで、事務局からご説明をお願いします。

[事務局（市民協働推進課長）]

それでは皆様よろしくお願ひいたします。資料 1 に基づきまして、仙台市市民活動サポートセンターの機能強化についてご説明をさせていただきます。

まず、前回の委員会でご審議いただいたことについて、振り返りたいと思います。昨年度の議論の中でもありましたが、機能強化の 1 番目に、1 階でイベント、2 階をギャラリーとして一体的に活用するというご意見がありました。フルモデルチェンジという意味では、2 階の活用も目指していくべきで、吹き抜けにエレベーターを設置するなど、活用の方法があるのではないかというご意見がございました。

2 番目といたしましては、前回の委員会ではハード面の説明が中心でしたが、合わせて、ソフト面も同時並行で進める必要があるのではないか、ソフト面の拡充を目指して、肉付け作業も必要ではないか、というご意見をいただきました。

3 番目といたしましては、ホームページの情報提供ということで、特に学生が参加できるボランティアやインターンの情報もホームページで提供する充実策についてご意見をいただいたところです。

4 番目といたしましては、情報発信ということで、団体同士のつながり、団体の意志が見えるような仕掛けが必要ではないか、利用者が気軽に対話したり、つながりが簡単にできるような工夫も必要になってくるのではないか、というご意見です。

それからサインージのお話もありましたが、やはりこのサポートセンターについては、情報発信という点で少し足りない部分があるということで、施設のアピールなど、外への情報発信の工夫がもう少し必要というご意見がございました。また、多様な方が今後來館されて、交流の場とするという意味では、カフェの常設も必要ではないか、というお話もございました。

また今回、機能強化に合わせまして、スペース確保のために事務用ブースの設置数を絞ることも考えているところですが、事務用ブースについては、まだまだニーズを掘り起こせる可能性が出てくるのではないかということで、必要であれば、また設置数を増やすことも検討すべき、というご意見をいただいたところです。

最終的に議論のまとめということで、委員長にもおまとめいただきましたが、1 階 2 階の同時利用については、改装費用も含めて、大がかりになることもございますので、現実論としてどういう利用ができるかを考える必要があり、特にバリアフリー化については、予算面と全体の機能を考える中でどうしていくかが課題になってくる、というところがございました。

2 点目といたしましては、ハード面だけではなくて、やはりソフト面も重要ということで、ソフト面の機能でこういう機能があるから、ハードとしてこういう構造に変えるというような、ソフト面とハード面の結びつきについて、シナリオを持って進めていくとよいのではないかと、というお話がございました。

また、その他のポイントとして、施設の内外での情報発信、情報伝達のあり方、またコミュニティビジネスの場というところも大事なポイントです。そういったポイントを、まずは理想として全体像を確立した上で、どこから手をつけていくのか、段階的にどう進めていくのか、という視点で考えていく必要があるということで、今回の機能強化の目標と効果をどうしていくかという視点で考えていくことが必要とおまとめをいただいたところです。

2番目といたしまして、以降我々といたしましても、多くの方にこの機能強化について知っていただいて、関わり合いを持っていただきたいということもございましたので、前回の委員会の後、可能な限り利用者の方や今後利用者になっていただきたい方に意見を伺いましたので、ご紹介させていただきます。

期間は、前回の委員会終了後の7月29日から8月いっぱい、計16団体の皆様に直接ヒアリングし、ご意見を伺いました。

意見の概要ですが、現在サポートセンターを利用している方からの意見としては、協働の強化という観点から見た場合には、場の設置だけではなく、ソフト面でも直接団体が情報発信できたり、団体同士が具体的に交流できたりする機会を積極的に増やしていくことが必要ではないか、というご意見をいただきました。

そして協働の観点では、サポートセンターを場として、サポートセンターの運営者と団体がタイアップで企画をつくっていくこともできるのではないかとのご意見がありました。また、一つ一つの施設機能の利便性をもう少し上げていただくと良い、というご意見もいただいたところです。

次に、多様な主体ということで、まだサポートセンターを利用していないがこれから利用者となっただけのような方からの意見ですが、使っていらっしやらない方からすると、サポートセンターに対する認知度がまだまだ低いことがございますので、認知度向上や情報発信を積極的に行ってほしいというご意見がございました。また、市民活動を勉強するとか、それぞれの団体、多様な主体についてもっと知る機会、ともに学ぶ機会をつくっていくことで、多様な主体がここで交流できるようになるという、「共に学ぶ場」の仕掛けづくりについてもご意見をいただいたところです。

以上が意見としていただいた内容でございますが、これらを含めて、事務局で再度検討を進めまして、「3 機能強化の内容の検討」としてまとめました。協働の強化という観点から、大きな論点ごとにまとめましたので、ご説明させていただきます。

具体的なイメージにつきましては別紙2 カラー刷りの資料をご用意させていただきましたので、合わせてご覧いただければと思います。なお、別紙2については、黄色に着色している吹き出し型のコメント欄がございますが、これは前回から検討を加えて、内容を盛り込んだ部分でございますので、合わせてご覧いただければと思います。

それでは(1)の「1階と2階の総合的活用」からご説明を進めてまいります。検討の視点といたしましては、やはり機能強化のインパクト、目玉を考えてみますと、利用者の方が

アクセスしやすいエントランス部分の1階と2階を、一体的に交流の拠点として活用できるように改装を行うことが最も望ましいと考えております。

ここに関して、何とか一体的に活用できるようにと考えてきたところですが、やはり課題となるのが、現状ではバリアフリーになっていないため、一般の方にもお使いいただくとなると、バリアフリーも同時に進めなければならないということで、エレベーターやリフトのようなものの設置など、さまざまな可能性について検討を行ってきたところです。

実施案でございますが、2階も含めてアクセスできるよう、策の一つであるエレベーター設置も具体的に検討してまいりました。

しかしながら、課題が何点か出てきまして、1つはエレベーター、リフトのようなものをつけると、1階の部分の床を補強する追加工事が必要になり、地下に柱を建てるといった構造上の補強も必要になるということで、地下の空間が使いにくくなってしまう可能性が出てくる場合がございます。

また2点目としては、エレベーターをつくりますと、2階部分の床面積が増えますので、扱いとしては改築になり、消防法で防火設備を最新の状態に更新することも合わせて実施しなければいけないという場合がございます。

そういったことも含め、工事費用については、エレベーターの増設に加えて、付帯工事も含めて、実施していかなければならないということが、課題として出てきたところです。

こちらについても、できるだけ簡易な方法も含めてできないかと、検討を進めてきたところですが、消防法、建築基準法などの法令に準拠した工事ということで、より詳細な検証もしていかなければなりません。

その結果、どこに手を加えなければならないか、金額もより精緻な検証が必要になってきますので、現時点では、エレベーターをつけてバリアフリー化できるかについては、判断が非常に難しいと言わざるを得ない状況というところでございます。

したがって、今回の機能強化の案としては、2階まで踏み込むことが難しく、1階と吹き抜けの部分で広がりのある空間をつくれればと考えたところです。これが1番目の「1階と2階の総合的活用」のポイントです。

2番目といたしましては、1階の空間整備と事業の一体的展開でございます。空間整備はもちろん、積極的にソフト事業を展開する際に、さまざまな主体の方々にアプローチすることが必要ですので、ハード面とソフト面を合わせて考えていければと思います。

実施案としては、まずハード面の整備ですが、パースでも描いてありますが、可能な限りこういった形の空間整備を行い、ワークショップやブース出店などが可能なイベントスペースとして使用できるように、改修を加えていきたいと思っております。

なお、ギャラリー及び展示スペースについては、できるだけ空間を取りたいと思いますので、まずは入り口、最初に足を踏み入れる自動扉のところ、風除室と言っておりますが、そのエントランスの部分展示スペースとして使用し、空間を有効活用できるように整備していきたいと考えております。

また、ご意見にもありましたとおり、この場を使って実際に出会っていただくこともありますが、情報交換、意見交換も効果的にできるようにということで、ホワイトボードや掲示板もツールとして配置し、気軽に出会えるような仕掛けも合わせて実施していきたいと考えております。

ソフト面での展開ですが、空間整備と連動し、事業を積極的に展開していきたいということで、いくつか例示をしております。

1つ目として、市民活動団体の紹介や参加者の交流を図るイベントの開催です。それから、さまざまな団体との共催で、セミナーやワークショップ、ミニステージの開催といったもの、また多様な主体に参加していただいて、さまざまなテーマで発信する場を設ける交流の場の創出を考えております。同じように聞こえるかもしれませんが、我々が狙っているのは、もちろん今の利用者の方々との交流もありますが、やはり多様な主体ということで、例えば大学や企業、町内会の皆様ですとか、これまで必ずしもサポートセンターを使ってこられなかった皆様との共催によって、このような方々も多くご来場いただけるようになることです。そういったさまざまな団体との共催も考え、企画を組み立てていければと考えているところです。

また、センターの機能強化として、コミュニティビジネスの場として活用することも大事な取り組みであると考えております。多くの利用者の方が来場する機会を捉え、カフェや物販などの出店を行っていくことが必要ではないかと考えます。

常設というご意見もいただきましたので、この点については出店する側、ビジネスをされる方にもお話を聞いたところ、はじめの一步として、人が集まる場所への出店が皮切りになってくるといってお話もございましたので、そういったところを第一歩として進めていければと考えております。

3番目といたしまして、5階の交流サロンの機能向上です。1階の機能との棲み分けを意識し、1階はどちらかと言うとエントランス部分ということで、出会いの場としての機能強化になりますが、5階は、多様な主体がコラボレーションしてさまざまなプロジェクトなどを生み出すためのミーティングスペースとして、さらに機能性を向上させることが課題になると考えております。

こちらの実施案に関しましては、机などのさまざまな什器について、レイアウトの組み換えができるものを取り揃える、あるいは議論を助けるためのツールとして、液晶モニター、ホワイトボードなどを可能な限り備えて活用性を上げていくことを考えております。

また前回の議論の中で、壁全体をホワイトボードにするといったご意見もいただきましたが、情報交換や意見交換を効果的にできるよう、ホワイトボードや掲示板を効果的に配置していきたいと考えております。

4番目といたしまして、認知度向上のためのアプローチ強化です。まだまだサポートセンター認知度が足りないという現状もございますので、まずは気軽に立ち寄っていただくための施設の外観面での工夫、あるいは施設からの情報発信の強化が課題になっております。

この実施案ですが、まずハード面の整備としては、認知度向上を目的としていきたいと思っております。壁面サインのLED化や、館内で実施しているイベント情報、施設案内を効果的に表示する案内板の設置など、我々としても最も訴求力の高い方法を取り入れていきたいと思っておりますが、限られた予算の中で、施設の外で一番効果的に表示する方法はどういったものがあるかについて、後ほどご説明いたします。

今回の機能強化のハード面については、今後事業者の方からご提案をいただいて、一番いいご提案に基づいて施設整備を行っていききたいと考えており、これについても事業者からご提案をいただきながら、最も効果的な方法を採用し進めていききたいと考えているところです。

また、エントランスの風除室部分は、通りから見て最初に目に入る部分ですので、この部分を展示スペースとして使用することで、外部へのアプローチを強化していきたいと考えております。

ソフト面の展開ですが、情報に関してはタイムリーに更新していくことが肝要ですので、案内板にタイムリーな情報を載せて、施設への関心が得られるよう、運用面での工夫を行ってまいりたいと考えております。また、センターの広報強化ということでは、外で行われているイベントなどに積極的にスタッフが参加し、センターの周知を図っていくことも大事な取り組みになるかと思えます。

5番目といたしまして、情報提供機能の強化でございます。こちらにつきましては、情報のアクセスのしやすさですとか、団体自身が情報発信したり、交流できる仕掛けをいかに構築していくかが課題になってくるところです。

ご意見の中にも、ホームページをより活用しやすくとありましたので、各機関のホームページと連携を図り、情報を得やすいポータルサイトとして、ホームページをさらに活用しやすく整備していきたいという点が1つです。

また最近では学生を中心に、スマートフォンで情報を得ることが多くなっていますので、館内にQRコードなどを掲示し、該当ページにアクセスしやすくする工夫を図っていききたいと考えております。

さらに1階の話とも関連しますが、団体の交流をより活発にできる仕掛けを、1階を中心にしていきたいと考えているところです。

6番目といたしまして、利便性の向上です。まず、協働が進むための強化ということが第一の目標ですが、それ以外にも利用者の利便性向上は大事なポイントですので、今回合わせて実施することが効果的なものを取り入れてまいりたいと考えております。

実施案としていくつか挙げておりますが、まずは受付の利便性向上、あるいは相談のしやすさといった環境の強化と、貸し出し備品を新しいものに変えて利用しやすくすること、研修室の使いやすさの向上を考えております。

バリアフリーについては、スタッフのサポートを強化することで利便性向上を図っていききたいと考えております。

また事務用ブースですが、機能強化の結果、より多くの皆様にご来館いただければ、ここを拠点に活動したいという方も増えていくことが考えられます。そのあたりのニーズを踏まえて、今後、事務用ブースの設置数の変更も可能な工夫をしていきたいと考えているところです。以上が機能強化の論点についてのご説明でございました。

最後に、今後のスケジュールです。1つ目は事業者選定について、冒頭で委員長からもお話しいただいたとおり、今年度内に機能強化のための工事を完了させたいと考えております。

したがって、タイトなスケジュールにも対応できるような事業者で、かつ、空間デザインにもノウハウがあり、設計から施工、備品類の納入を一括で実施できる複数の事業者にお声がけをいたしまして、その中から最も優れた企画を提案していただいた事業者をお願いしたいと考えているところです。

なお、事業者の選定にあたっては、これまで委員会でご審議いただき案をまとめ上げてまいりましたので、委員会からも委員のどなたかに代表して選定委員会に加わっていただくことを考えております。

次にスケジュールですが、今回の委員会でご審議いただき、概ね内容として固まりましたら準備をいたしまして、10月から事業者選定を進めていきたいと思っております。10月、11月で企画提案を受け、契約締結後の12月から2月にかけて施工しますが、開館しながら段階的に施工を行うことができないかも合わせて考えていき、年度内の3月には完成させたいと考えております。以上でございます。

[風見委員長]

ありがとうございました。前回までの議論をまとめていただけていますが、ひとつは1階2階の話がやはり大きいかなと思います。それとソフト・ハード、あとはカフェ機能、情報発信、バリアフリーの問題、情報伝達ということになると思います。

利用者からも交流を望んでいるという意見があり、基本的には符合する材料になっていると感じています。今日の議論は機能強化の内容の検討ということで、まず1階と2階の総合的活用については、エレベーターなどいろいろな課題も挙げられておりましたので、少し議論しなければならないと思います。

1階2階での交流というのは、いろいろな形があると思いますが、今日アイデアも含めて議論したいと思います。

2番目はハードとソフトです。この委員会には特に得意な方もおられるので、具体的にハードに入る前に、ソフト・ハードのいろいろなつながりを考えて検証しておきたいと思っております。

また、5階の交流サロンもありますが、特に施設の認知度については、前回もご意見がありましたデジタルサイネージがいいのかわかりませんが、LED壁面などをどうするかということになるかと思っております。

情報提供機能と利用者の利便性向上については、当然しなければいけないということです。前回の議論をまとめていただき、課題も踏まえて、方向性のたたき台を事務局で用意していただきましたので、これから議論の時間を取りたいと思います。

それでは前回のご意見が入っていることを確認していただき、もちろん入っていないところをご指摘いただきつつ、特に総合的な活用の落としどころとして、質問、ご意見をいただきたいと思います。

資料もじっくり見ながら、挙手いただいて、議論に入っていきたいと思います。どなたか最初にご質問等があれば、どんどんお願いしたいと思います。

[伊勢委員]

2階について教えていただきたいのですが、1階と2階のバリアフリー化のためのエレベーターの設置があると思いますが、2階の活用というのは、階段や廊下に市民が入れるということでしょうか。事務室機能はそのまま残すということによろしいのでしょうか。

[事務局（市民協働推進課長）]

ご質問いただいたとおり、2階に物理的にスペースがございまして、1階から入ったところの階段、事務室、通路となっている部分です。

事務室に市民の方がご利用いただける機能をつけて、どなたでもアクセスできるように、エレベーターなどを設置して、活用するのが本来的には理想的な形であると思います。

一方でバリアフリーがなかなか難しいとなると、実際にアクセスできる方が限られますので、1階と2階の活用で考えられるのは、例えば事務室の機能をそのままにしておき、階段と通路は、運営側の主催者、あるいは運営側と団体と協働で何か催しをやるときに、飾りつけですとか、あるいは上から展示物を吊り下げるとか、どれだけ強度があるかという課題がありますが、場の雰囲気づくりとしてうまく活用しながら使うのが、現実的と考えております。

[伊勢委員]

ありがとうございます。

[風見委員長]

今の議論に関連して、特に1階と2階の総合的活用については事務局の検証によると、エレベーター設置は構造上難しいという判断だと思います。これについていろいろな意見が出たと思いますので、方向性を決める必要があるかと思います。

ここに集中してご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょう。現状、大々的な改装をしないというときに、例えば車椅子が上げられるような仕組みがつけられるかなど、ほかのオプションになるかもしれませんが、何かよいアイデアがあるのかを議論したいと

思います。いかがでしょう。

[伊勢委員]

バリアフリー化はすごく重要だと思いますが、2階の利用法を考えたときに、一体的な利用が動き出したときにどのくらいの人が2階に上がるのか、どのくらいの活用されるのかを考えました。

今、事務室が2階にあるので、利用者は2階に上がることはないわけですが、ここから全体的な利用となったときに、渡り廊下にある装飾を見るために、上に上がるぐらいなのか、事務室にどこまで市民が入れるのか、どんな機能を事務室に持たせるのかでも、利用者の割合がだいぶ変わると思います。2階に上がる分母の数がだいぶ変わるような気がしています。

そうしたときに車椅子の方、不自由な方が自力で上がることを考えますが、もし現実的にエレベーターの設置が難しいのであれば、何らかの形の人的サポート、例えば利用者の方が行きたいときに気軽に相談して、ソフト的な面でカバーできるサービスを表に出すといった、市民にとって優しいサポートセンターであつたらいいと思います。

[風見委員長]

ありがとうございます。ほかに何かございますか。どうぞ。

[其田委員]

今日まで会議を重ねてきた中では、2階の事務室を展示企画などで活用し、1階と2階に行く動線をつくらうということが、ひとつの出発点だったと思います。

現実的に、予算面でエレベーターがほぼ不可能という話ですが、やはり車椅子の方々が2階に上がる動線をつくることに軸に置くのであれば、例えば階段を歩道橋のスロープのような形で対応することはできないのでしょうか。予算的にエレベーターを設置するよりは安く、誰かが車椅子を引けば何とかなるかたちかと思えます。

予算の問題で、2階に現状のまま事務室を置くという結論であれば、改めて1階と2階を活用することが最初の出発点だったことを思い出す必要があると思います。そして、展示企画スペースを置くのであれば、やはり車椅子もアクセスできるような、安く済む手法を検討する必要があると思いました。

[風見委員長]

そのあたりどうですか、事務局で何か議論しましたか。

[事務局（市民協働推進課長）]

エレベーターと申し上げましたが、例えば、地下鉄五橋駅の福祉プラザにつながる階段

の自動昇降機のようなものを階段部分の壁につけることで、何とか 2 階へのアクセスができないかを考えたところではございました。

スロープ設置は階段が急で難しいことから、壁に昇降機のようなものが設置できるか検討しましたが、壁の強度が耐えられるかという点も合わせて検討しなければならず、強化対策が合わせてできるかも、先ほどのエレベーターの設置と同様に、しっかり検討する必要があるという結論に至ったところです。

[風見委員長]

よく駅で見かける昇降機ですね。それが強度的、予算的にどうかというのは、少し下調べをしていただいているのかもしれませんが、今後発注するときの条件にしてもいいですし、事前に少し詰められるのであれば、それを組み込めるのかどうかというのは検討してみてください。

実際に交流ができるという意味では、ハード的な問題と思います。現実的にコストと構造、設備が可能であれば、今の案は検討する余地があると思います。その点よろしいですか。まずはトライしていただいて、コストパフォーマンスがあると思いますし、強度の問題が無理であれば難しいですが、検討していただきたいと思います。

もうひとつは、もともとこの 1 階 2 階の交流がある意味で目玉になる空間だろうということで、ここに注力するということでしたので、苦肉の策ではないですが、こういう場合に経験上考えるのは、2 階が楽屋のようになっていて、階段だからこそでできる演出として、例えばそこをアーティストが下りてくるとか、もしくは下でイベントを行うときに、2 階を観覧席にするとか、そういうことぐらいしかないとします。

楽屋というのは、基本的には特定の人を使うものですから、一般の人が上がれるようにするには、今の昇降機ぐらいしか可能性がないという気がします。

例えばイベントのときの楽屋として活用するなど、一体的に効果的に使えるようなほかのアイデアがあれば、今日募っておいて、後から思いついたのであれば、事務局にお送りいただきたいと思います。いかがでしょう。なかなかそれ以上のアイデアがなさそうであれば、資料の次の検討項目に行きますが、何か思いつきますか。

[小野委員]

曖昧な情報で恐縮ですが、エスカレーターで、車椅子が乗るときだけ、ステップを三段分ぐらい平らにして、車椅子のまま上がるエスカレーターがあったと思います。コストの問題や、重量の問題での地下の補強など課題は出てきてしまうかもしれませんが、そういったものも検討材料のひとつとしてあるかと思いました。

[風見委員長]

事務局どうですか。

[事務局（市民協働推進課長）]

今、お話しいただいたところも含めて、調べてまいりたいと思います。いずれ予算との兼ね合いも含めて、検討させていただきたいと思います。

[風見委員長]

ハード的な解決ができるか、ソフト的なものも含めて、意見を募集したいと思いますので、今日お気づきの点があれば、会議の中でも結構ですし、後ほどメールをいただいてもいいかと思います。

ほかに何かございますか。次のご意見がないようでしたら、議題を切っていきたいと思っています。1階のソフト・ハードの面についてアイデアがあるなど何かご意見があれば、どうぞ。

[其田委員]

1点質問です。別紙2の2階事務室にプロジェクターが設置されていて、それを反対の壁に投影しているイメージ図ですが、これは設置する方向ということでしょうか。それとも仮に置いているだけでしょうか。

[事務局（市民協働推進課長）]

現時点では、壁面である柱の上の部分の活用についても提案の対象になると考えているところです。

情報が必要な方にとって、見やすい表示を取り入れていきたいと思っております。資料はもちろんひとつの例ですが、こういった活用も含めて、館内でできるだけ情報を得ることができるようしていきたいと考えております。

[風見委員長]

いかがですか。ほかにございますか。特に1階2階の空間的なもの、ソフト・ハードを含めて、何かご意見があればどうぞ。

[佐々木委員]

確認になりますが、ある程度のお金をかけてやることなので、施工前と後がある程度わからないと、市民に対して説明しづらいと思います。

これまで最初のワークショップの意見なども踏まえて、2階の活用という意見が出てきましたが、実現が非常に厳しい中で、おそらくどこにインパクトを置くかは施設の顔になると思います。例えば、受付の位置がもともと奥にあったものを、今は手前にして、今度また奥に戻すような形であったり、チラシのラックの場所が入れ替わる程度だと、イン

パクトが弱いかと思います。どこにインパクトを置きたいという議論はありましたか。

[事務局（市民協働推進課長）]

我々としても、これまでいろいろなご意見をいただき考えてきた中で、一番やっていきたいことは、入ったときの空気感、見た目のところで、例えばパースにありますように、壁面や床に木材を使うことでの居心地のよい空間整備にあります。現状ですと、一番奥の部分が図書コーナーになっていますが、利用状況も踏まえて、ほかの場所に移すことを検討しながら、できるだけ1階を広々と使って、居心地のよい、使いやすい空間にするところが目玉になると思っておりました。

ただ、受付については、利便性も残しておかないといけないという議論もございましたので、例えば1階の入り口近くの空間に、現在別の事務局が入っていますが、そこを置き換えて、簡単な受付であれば入ってすぐにできるようにすることも考えられます。そして奥の空間では、もう少しゆっくりと受付ができるように、機能は絞りつつ、必要なものを最小限置いて、残った空間を広々と使えるような、しかも居心地のいい空間を目玉、インパクトとして出していきたいと考えております。

[佐々木委員]

わかりました。このパースは、宮城大の平岡先生と学生が作ったものでして、このイメージでいくと違うということにもなりかねないと思いますので、絵も場合によっては差し替えてもいいのかと思いました。

[風見委員長]

いかがでしょう。1階2階の空間的なイメージが、このサポセンの改造の一番代表的なところになるわけですね。そういう意味でこの空間論はとても大事だと思うので、もっとたくさん意見いただきたいところです。

例えば、通りの外壁やサインから導入されて、1階に入るとギャラリーや物販的なものでもいいですし、今までとは違っていろいろなことが考慮されているという雰囲気を出せるかだと思うんですね。

今後、プロポーザルで議論していく内容もあると思いますが、実際に変わったときのサポセンでどういうシミュレーションができるかだと思います。佐々木委員の話はそういうことだと思います。目玉になるというか、事務局としてこのあたりを一番見てほしいというのはどこでしょうか。

[事務局（市民協働推進課長）]

委員長のおっしゃったとおり、できるだけこういった空間整備をした上で、残りはコンテナ、ソフトの部分になってくると思います。例えば、メディアテークの1階のように、

いろいろな催しが行われ、外側にも中でこういうことをやっているというサインを出すことで、賑わいがあるなら入ってみようという人の動きをつくる、そこがひとつの目玉になってくるかと思います。

その空間整備と合わせて、この中でできるだけたくさんの仕掛け、例えば出店、シンポジウム、ワークショップといったものを外に対して見せることがひとつの目玉になると考えております。

[風見委員長]

例えば具体的に言うと、今までの仙台市の中でコミュニティビジネス的に始められている方のいろいろな商品が陳列されていたり、カフェ機能があったりという物販的な要素は、このパースの中ではどういう位置にありますか。入ってすぐにカウンターがあって、タンブラーなどを売っているコーヒーショップもありますが、そのようなイメージはどこかにありますか。

[事務局（市民協働推進課長）]

そのあたりは今回、フレキシブルに活用と書いております。例えば、お祭りなどたくさんブースが並ぶようなときは、縁日のように出店が並びますし、地下と1階を連動して使うようなときは、1階をホワイエとして、地下への入り口近くにカフェブースなどを出して、1階でくつろいでいただけるようにすることも考えられます。

その辺は、その場その場に応じて、固定せず、フレキシブルに一番いい場所に設置することをイメージしています。

[風見委員長]

わかりました。今後、業者が選定されれば、その中でレイアウトもいくつか考えて、スケッチを出していただいて、イメージを見ながら決められると思うので、今回の発注の中で、イメージが膨らんでいくような誘導をしていただき、委員会へのフィードバックもぜひお願いしたいと思います。

また空間的なイメージが、皆さんの中にもいろいろ出てきたと思いますので、それをもう一回整理していただきたいと思います。特に1階2階部分です。

次は、5階交流サロンや認知度の話など、まとめて議論したいと思います。

先ほどのLEDや外壁の話もイメージがあれば、お聞きしたいところです。認知度をどう上げていくかということと、利便性の話もはずせないところですので、何かご意見あれば、挙手いただきたいと思います。いかがでしょう。

[高橋委員]

前回、前々回に出した意見をかなり汲んでまとめていただいて、感謝しております。ソ

フト面での展開で、「多様な主体が実施する外部イベントやセミナーへスタッフが積極的に参加しセンターのPRを図り」とあります。これについては、例えば高校、大学など、これから市民活動についてもっと知ってほしいと思うような人々に、授業の中の20分30分を使って、市民活動の意義みたいなものをお話していただける方を派遣してほしいという、個別の希望に対応していただけると、学生とこういう施設の接点をつくることができると常々思っています。そういったことも含まれていると考えてよろしいでしょうか。

[事務局（市民協働推進課長）]

大変ありがたいご提案と思います。確かに認知度を上げていくときに、最終的にはこの場が協働の拠点になればいいという思いはあります。そのためにもやはり、委員からお話がありましたように、大学生や高校生にアプローチする仕掛けとして、例えば授業の中で取り上げていただいて、PRも含めてお話をさせていただくというのは、高校生、大学生といった若い世代に認識を持っていただくいい機会になると思います。いろいろなつながりを持っていく中で、お話があれば、具体的に対応させていただければ、こちらとしても大変ありがたいと考えます。

[高橋委員]

同時に要望ですが、やはり震災後に学生がボランティアをしたいということで、さまざまなNPO団体を調べたとき、実際には連絡が取れなかったり、「あれ？ブログがあるのに、全然更新されていないね」なんていう団体がだいぶありました。

その後、だいぶ状況も変わられたかと思いますが、ぜひこの市民活動サポートセンターについては、場所の提供も大事ですが、仙台市が管轄する市民活動、NPO等をもっともっと市民に近づくための仕掛けづくり、努力をしていただければと思います。

ホームページ等を強化されるときに、たくさんの団体があるとは思いますが、例えば1週間に一度、1団体が自分のところを紹介していくリレーメッセージ的なものでも、何でもいいと思います。仙台市が持っているいい活動をどんどん紹介し、なおかつ、あまりそうでないところも促すような形で、もっと一般の市民の人たちと結びつける役割を担っていただけたらいいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

[風見委員長]

事務局、どうぞ。

[事務局（市民協働推進課長）]

やはりサポートセンターの機能として、マッチングをするコーディネート機能は、大事な機能だと思っております。例えば震災を契機に立ち上がったものの役目を終えた団体など、さまざまな団体があるかと思っておりますので、サポートセンター側が普段から情報を収集

し、タイムリーに情報提供することが大事であり、ご相談があったときに、最新の情報を持って対応するなど、これからも留意しながらやっていければと考えております。

[風見委員長]

ほかにご意見はありますか。どうぞ。

[伊勢委員]

今すぐにといいことではありませんが、昨日もサポセンを利用させていただいており、いつも本当にお世話になってありがたいと思っております。ただ、ひとつ気になることがあります。最近新しく入られるスタッフが多いというのを感じています。

昔からいらっしゃる方は相談に乗っていただきやすいという安心感がありますが、スタッフが変わられると、新しいスタッフが窓口の対応をされるので、今どんなスタッフがいるか、自己紹介的なものがあるといいと思います。このスタッフはこの分野が得意であるとか、こういう相談はこのスタッフにというのが見えると、利用者も相談しやすくなると思っております。

窓口などに、そういったスタッフ紹介のコーナーを設置する工夫をしていただくと、利用者側としてはありがたいと思っております。

[風見委員長]

本当によい、面白い意見だと思います。センター長、このことについてももしご意見があれば、どうぞ。

[市民活動サポートセンターセンター長]

伊勢委員のご意見はごもっともで、スタッフにもやはり得意・不得意の分野があります。ご指摘のようにスタッフの入れ替わりがあり、新人も多くなっていますので、ぜひボード、あるいは名札などを活用したスタッフの紹介を検討してみたいと思います。

[風見委員長]

とてもいい意見だと思います。前に韓国の希望製作所というところにコミュニティビジネスの草分けで招かれて講演に行きましたが、事務所のデザインが素晴らしいんですよ。階段のところにスタッフのワーキングの様態だとか、顔写真もあったと思います。

さらに、ドネーションした番号があって、そこに自分の名前を入れるようになっていました。ドネーションした人たちの名前がずらっと並んでいるのですが、実は番号がついていて、例えば 777 はすでに売れていて、まだらに空いているんですね。ですから、番号のところに自分の名前を入れられるようになっていて、そういう仕組みがすごくよくできていました。そのときやっぱりひとつはデザインが大事と思いました。

それと実際にスタッフの顔が見える。欧米、韓国もそうですけど、当たり前プロファイルが出ています。それはいいアイデアですよ。センター長どうでしょうか。そのあたりはやはりスタッフの方が誇りを持って働けるような環境づくりというのも、今回このソフトを絡めてやっていくことはとても重要だと思います。

特にデザインは少し入れるだけでも全く意味が変わるので、今、伊勢委員からとてもいい意見をいただいたと思います。ハードもとても大事だけど、デザイン的な統一がとても大事だと思いました。この部分をぜひ取り入れていただければと思います。やはりデザインからセルフイメージも変わっていき、みんなもやりがいがある環境にしたほうがいいと思います。

そういう意味では市役所も、もっとデザインを公的に取り入れていただきたい。若いころにボストンの再開発公社に行きましたが、シティプランナーは恒久的に雇われていて、ガラス張りの個室を持っていて、格好いいんですよね。

スタッフそれぞれの専門性を活かした働きやすさも見える化するような、デザインを入れるのもぜひ考えていただくといいと思います。ほかご意見いかがでしょうか。其田委員、どうぞ。

[其田委員]

ソフト面で核となるのはスタッフの養成だと思います。今お話がありましたように、コーディネート業務と相談対応を積み重ねながら、担い手を増やしていかなければいけません。ソフト面で強化すべきは、人の流動があっても、核となるスタッフがいて、回転するような仕組みをつくらなければいけない。もちろんそれはサポートセンターだけでなく一般的にも言える話ですが、人に対してどれだけ投資するかという視点で、研修費用などもそれなりに組んでもよいかと思いました。

それがコーディネート業務につながるというのがありますが、ソフト面での展開で、資料に「空間設備と連動して、下記の事業を積極的に展開する」とあるのはほとんどが企画ものだと思うんですね。

これはソフト面というよりは、人がつくり上げていくものですので、拠点として働いているスタッフの方々がいかに創出できるかということも関わってきますし、コラボするにも自分、あるいは組織間のネットワークがないとできませんので、その人の知識・能力が非常に大事になってくると思います。そういう人を育てていくために、スタッフの研修に費用を充てることも大事なことですし、また、この企画ものについては、年間を通してどのくらいの頻度で考えているのかがポイントだと思います。

今回の資料には平時のイメージ図が提案されていますが、その企画ものをするときには、レイアウトを少し崩して、1階2階を思い切り活用するようなレイアウトに変えると思いますが、その稼働率が年間を通してどのくらいなのかについては、今までの数値と比較して定量的に計れる部分だと思います。そういう部分は少し手が届きにくい数値目標を設定す

るというのも、スタッフのモチベーションが上がってくると思いますので、そういうものを設定してもよろしいのかと思います。これはお金がかからない部分かもしれません。以上です。

[風見委員長]

よろしいですか。何かコメントがあれば、事務局、どうぞ。

[事務局（市民協働推進課長）]

今其田委員からお話がありましたとおり、ひとつはやはり人というか、企画をするにしても、そういうことが適切にできる人をどう育てていくか。定着も含めて、そういったところは大変大事な部分だと思いますので、運営するせんだい・みやぎ NPO センターとしっかり話し合いをしながら進めていければと思います。

企画についても、いただいた意見を踏まえて、具体的な目標も掲げながら、やっていければと思っています。

[風見委員長]

私からもさきほどデザインと言いましたが、割と簡単にできるのはサイン計画です。これについても今後プロポーザルを行うときに、やっていただくといいのではないのでしょうか。サインを刷新して、先ほどの外部に対するインフォメーションのイメージも変わると思います。

ただ、サイン計画というのは手軽なようで、結構コンセプトをつくらなければならないので、その部分の費用があるのかとかいう議論があるかもしれません。それでもサイン計画はやはり大事だと思います。ほかにご意見はありますか。どうぞ。

[庄司委員]

前回の会議、委員会でもソフト面とハード面の結びつきが重要とのご意見がありました。このサポセンのリニューアルは何でやるのかについて、今まで市民活動をメインに支援していたところを、もっと多様な主体がつながって、協働を生み出す場にしていくためにリニューアルをしようとなっていると思います。やはり協働というのは手法であると思いますが、まずはどんな課題があって、どんな目的のために協働するのかをはっきりしないと、協働してくださいと言っても、一体何のために協働するのかが市民に伝わっていかないと思います。

現状、宮城県内のほかの市町村から見ると、仙台市は宮城県の中では経済の中心でありますし、人材に関しても学生、若者もほかの地域に比べたら豊富だと思うんですね。

それでも、やはり地域社会の課題があるところを、仙台市にはどんな地域課題があるのか、どうやって解決してほしいのかをもう少し打ち出さないと、「協働してください」「み

んなで何かやってください」と言っても、なかなか動けないと思います。

仙台市の課題をもう少し強く打ち出す場があると、自ずと一緒に課題を解決したいと思う人たちが、手をつないで一緒に活動する場になると思います。もしかしたら、ソフト事業の部分かもしれないのですが、そういった点でも再検討していただければと思っております

[風見委員長]

そのとおりですね。協働は手法であって、この中から交流が生み出される、協働が触発されるような空間、ソフトとハードがないといけないということですよ。

本郷委員、いかがですか。

[本郷委員]

質問ですが、今回のサポセンの機能強化には、地下1階の施設は入っていないのでしょうか。

[事務局（市民協働推進課長）]

はい。今回の案の中では、どこを重点化していくかという中で、主に1階と5階の部分の活用を中心に考えるということがありましたので、地下1階はシアターとして使っておりますが、今回の機能強化の対象には含まれておりません。

[本郷委員]

ありがとうございます。1階と2階の利活用に戻りますが、もちろん外壁のLEDのライトも含めて、1階をどのように活用するかが、サポセンの認知度向上を左右すると思います。

1階でやっているいろいろなイベントが見えるような、例えば2階はエレベーターの設置が難しいのであれば、風見委員長がおっしゃったとおり、2階を特別ラウンジのような形で、1階のイベントが見られるような設定にするといったことが考えられます。

また、場の提供をしていただくとともに、サポセンでこんなことをやっているということを市民の皆様に発信しないと、サポセンというものがわからないと思いますので、先ほどの交流の場、対話の場といった多様な主体が参加する場面の公開収録を行うなど、情報発信も含めてやっていけばいいかと思いました。

[風見委員長]

ありがとうございます。島田委員。

[島田委員]

私は認知度の向上がすごく大事だと思います。どういう情報発信の仕方をするかですけ

ど、ホームページ等に載せるのも大事なことだとは思いますが、何かちょっと受け身なような感じがします。

市の職員の皆さんもセンターの皆さんも、いろいろな活動団体と一緒にすることが多いと思いますので、そういうときに当たり前ですけど、直接声がけをしていただいて、その利用した団体がほかの団体に声がけをしてもらうということが基本なのかと思います。

もう 1 点、利用団体の中で、飲み物のセルフサービスコーナーを設置してほしいというのがあります。対話や交流の場で飲み物が飲めるというのは、すごく大事なことだと思います。ビジネスホテルなどに行くと、フロントの前やエレベーターの近くにコーヒーコーナーがありますよね。あれだとセルフで簡単に設置することができると思います。

[事務局（市民協働推進課長）]

今、島田委員からご意見があったとおり、飲み物のサービスについては、利用者からの意見としてもありました。自動販売機も含めて、どれが一番やり方としていいかという議論もありますが、いずれにせよ利便性の向上ですとか、利用者が議論をする際のサポートになることがあると思いますので、今は持ち込み可能という形にはしておりますが、施設内でも飲み物が得られるような工夫は合わせて検討していきたいと思っております。

[風見委員長]

ありがとうございます。何かもう一言ありますか。

[伊勢委員]

スタッフの育成について、結局、サポートセンターを支えていく、動かしていくのはやはりスタッフになると思うんですね。やはり新しい人たちが今どんどん入ってきて人材の定着という課題もありますが、その人たち一人ひとりの得意分野をつくっていく、相談窓口や情報提供を行うときに、ひとつのアイデアとして、スタッフの人たちが自分の関心のある分野の市民活動の団体のイベントなどに積極的に出ていくような機会を保障していただくとありがたいと思っております。

サポセンの中でやっているものだけではなく、各団体が独自にいろいろなところでいろいろな活動をしておりますので、それがスタッフ研修という形なのか、あるいは業務の中で交通費、参加費を支給してもらうのか、研修費用で外部の講師を呼んで何かをやるのももちろんですが、ネットワークを築くという意味でも、アクティブスタッフという視点で保障していただくとありがたいと思っております。

サポセンスタッフの方が自分の団体のイベントに顔を出していただけると、非常にありがたいし、やはりネットワークを築くきっかけになると思いましたので、ご検討いただければと思います。

[風見委員長]

ありがとうございます。大橋副委員長もありますか。

[大橋副委員長]

今日皆様のご意見を伺っていて、自分なりにまとまってきたような感じがしてきます。今回ハードの強化が入り口になっていますが、当然それとソフトの相乗効果をどうつなげていくのかが大きな前提になるかと思っております。

そのソフトとハードの相乗効果と考えたときに、今日の話ですと大きく3つぐらいポイントがあると思っております。まずはサポセンのスタッフと市民、企業、利用者、ここをどう繋いでいくのかというポイントです。

それからもう1つは社会課題と市民をどうつないでいくのか。協働の意味をそもそも伝える必要があるという話がありましたが、そういうものをハード的にも担保していくということが必要という論点。最後は今の市民活動と、そこへつながっていない市民の方をどうつないでいくのか、というポイントがあると感じて聞いておりました。今後はハード整備の業者選定を行うと思いますが、そこでも今日お話しいただいたポイントが、選定において大事なポイントになっていくと感じました。

[風見委員長]

ありがとうございます。大体ひととおりのご意見いただいたということでよろしいでしょうか。小野委員、どうぞ。

[小野委員]

やはりリニューアルされて最初のうちは真新しさもあって、いろいろな方が大勢入っていただけだと思いますし、イベントを行うときにはそれなりに人が集まると思います。

それが5年、10年経っても、イベントをやっているときだけではなく、継続的に新しい人々が入って来ていただけるように、1階、2階の中長期的な活用の仕方を考えていただけるとよいと思います。また、信頼のおけるスタッフということについては、先ほどから委員の皆さんがおっしゃっていますが、やはりサポセンから発信する「情報の信頼性」というのも、とても大切だと思っています。企業が連携先を探すときにも、ここに相談すれば安心できるパートナーを紹介していただけたらとか、その逆もしかりだと思いますので、ぜひ「情報の信頼性」をきちんと確保してほしいと思います。それから、企業の情報の発信についてですが、企業の場合は、どうしても営利目的の情報が多くなってしまうため、サポセンでの情報発信は難しいのが現状だと思います。これから企業とも連携強化していくためには、よい情報の発信の仕方についても検討していただければと思います。

[風見委員長]

それも大事な指摘ですね。情報が人をつなぐので、ここに来ると信頼性のあるしっかりした情報が得られるというのも大事ですし、今の産官学民でソーシャルビジネス、コミュニティビジネスという観点で、企業が単に営利だけを求めていくという時代ではないので、単なる CSR でもない、クリエイティング・シェアード・バリューとよく言いますが、社会的価値を生み出す企業の価値が見直されているので、単に非営利、営利ではなく、それをつなぐ場はとても大事ですね。

そういう意味で企業も参加していただきやすい拠点づくりを意識していきましょう。ほかよろしいですかね。それでは最後に、今後のスケジュールをもう一度確認させていただいて終わりたいと思います。今後、基本的には 10 月から業者選定に入って 12 月から施工し、2 月頃に第 3 回委員会が予定されていますが、3 月に完成ということでよろしいですか。

[事務局（市民協働推進課長）]

本日いただいた議論を、もう一度事務局でまとめ、仕様書に落とし込んで、10 月に業者選定を行いたいと思います。

恐らく業者側も、これから企画書を考えていただくこととなりますので、十分な期間があったほうが、いろいろな知恵を出していただけたらと思いますので、選定ができるのは 11 月末頃かと思っております。

それから施工に入りますまいりますが、年末年始や短い 2 月を挟みますので、工期については約 3 カ月とプラスアルファで考えております。ひとつの目標としては 3 月末ですが、できるだけ 3 月の早い段階で工期の完成となる仕様で、今後進めていきたいと考えております。

[風見委員長]

進め方については何かご質問ありますか。

[佐々木委員]

コンペですけど、この機能強化の具体案を基にコンペさせるのか、それともある程度フリーに、自由に意見を出させるのかを教えてくださいたいと思います。

[事務局（市民協働推進課長）]

基本的にはこれまでご議論いただいてきたベースを盛り込んで、それに対する提案をいただくということになります。全くのフリーでご提案していただくというよりは、我々として盛り込みたい機能を提示し、それに対する工夫などでコンペをするイメージで考えております。

[事務局（市民局長）]

今のご質問ですが、この発注の仕方や仕様のつくり方は工夫しないといけないと思います。建築学的に言うと、以前は個別仕様で壁をこうなさいという発注の仕方でしたが、最近では性能発注といって、性能水準、目指すべき空間はこういうふうに使いたいので一定の予算の中で提案してくださいというような方法もあります。

今回、この工事を発注するにあたっては、この個別に積み上げてきたパーツを与件として発注すると、いいアイデアはもう出てこないと思っています。そういう意味で1~2階部分については、使われ方、使い方のイメージを性能としてお示ししながら、予算上限の中でいい提案を求めるというやり方のほうが、多分よかろうと思っています。また、上のほうはむしろ、個別のフロアの設備をどう変えていくかという話ですので、これ逆に個別仕様で規定してもいいと思っています。

ですから、いい提案を予算の上限の中で引き出すための仕様のつくり方は工夫をしないといけないと思っています。

[風見委員長]

ありがとうございます。よくわかりました。これについては今、局長がおっしゃったとおりだと思います。個別に仕様が決まるところもあれば、柔軟な提案を期待したいところもあるし、うまく組み合わせていただいて、逆に答えありきではなくて、いいアイデアや性能を示した上で、ソリューションを提案していただくことが、単に値段だけではないプロポーザル型になると思います。

審査委員会のつくり方については事務局でご議論されると思いますが、委員会の意向をしっかりと審査委員会の中に入れていただきたいと思います。委員会から1名なり2名なりの人選をさせていただくことについて、委員長の一任ということによろしいでしょうか。

アクションチームが中心になると思いますが、その中で事務局とご相談して、この委員会での議論も的確に反映できるような、また皆さんにご報告したいと思いますが、よろしければそのような形で進めさせていただきます。よろしいでしょうか。

ここまでの議論いかがでしょうか。これからいよいよ、局長からもお話がありましたように、発注、業者選定に入ることになります。皆さんのご意見を十分、事務局でも反映していただくということになると思いますので、引き続きご報告しながらやっていきたいと思っています。ここまでありがとうございます。

3 その他

[風見委員長]

それではその他に移りましょう。

[事務局（市民協働推進課長）]

それではその他ということで、事務局から4点ほどご報告あります。1つ目は、ただいまご議論いただきましたサポートセンターの機能強化と合わせて、もうひとつの柱であります協働の手引き・事例集の進捗を、ご報告させていただきます。

事例集につきましては、取材に着手をしております、協働でつくるということで、市民ライター、学生ライター、それぞれ6名にご参加をいただくことができまして、そこに職員の有志ライターも含めて、取材に向けた研修、あるいは実際の取材に着手しております。進捗については、随時ご報告できればと思っております。

2点目ですが、マチノワ縁日についてご報告したいと思います。既に7月29日に実施済みですが、サポートセンターの事業、まさにこれからソフト事業をしていく中での、ひとつの取り組みのヒントになるものかと思っております。

市民活動団体、企業、地域団体などのブース出店のほか、関連した企画なども実施し、一日かけて、縁日という名称のとおり、お祭りのような形で実施したものです。

こちらについては一日で延べ362名にご来場いただき、盛況でした。こういった取り組みが、今後の機能強化のひとつの事例、テストケースになってくると思いますので、次年度も実施していければと思っております。

3点目ですが、今年度、仙台で世界防災フォーラムが11月25日から国際センターを中心に開催されます。

11月26日日曜日に、「防災と市民協働」というテーマで、セッションをできないかとお話をいただいております。現在どのような形で実施するか検討しながら準備を進めているところです。

こちらについても実施案が決まりましたら、皆様にご紹介をさせていただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

最後は、次回の委員会ですが、1月の下旬から2月の中旬あたりで開催を予定させていただきたいと思っております。日程、詳細が決まりましたら、事務局から皆様にご連絡させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

[風見委員長]

ご紹介がありましたように、さまざまなイベントがマチノワのように継続していることもとても大事ですし、また世界防災フォーラムについてのご案内もありましたので、ぜひ引き続きご協力いただきたいと思います。皆様から特にございませんか。

では最後にとても重要な時期に入ってきたと思いますが、局長からも一言お願いします。

[事務局（市民局長）]

昨日第 3 回定例会が開会いたしました、新市長が所信表明をいたしました、その中で 3 つほど柱の項目を挙げました。1 番目が健やかに安心して暮らせるまちづくりということで、これは教育、地域福祉、子育てといったことです。2 番目はまちの魅力と活力の向上ということで、東西線などのいろいろな都市開発です。

そうしたまちづくりの基本となる考え方は市民の皆様との協働だという言い方をしております、3 つの柱の 3 番目は、市民協働のさらなる取り組みを推進していきたいという話をしております。

先ほどの質疑の中で、もう少し周知をするためにも、ホームページ等だけではなくて、現場に出て行ってという話がございました。私どもも、地域づくりの最前線として、サポセンの機能強化を行います、職員も含めて、地域に入って、どんどん地域づくりの最前線で頑張れという話をしていきます。

その一方で区役所の職員は、サポセンや NPO とのつながりはそれほど多くありませんので、私ども行政が協働によるまちづくりを進めるときに、サポセンの役割を今後どう期待し、拡充していくのかというところにおいて、現場に行つてこのサポセンの役割を PR していただくことが必要だろうと、お話を聞きながら思っておりました。サポセンは重要ですが、サポセンだけで全部できるわけではございませんので、全体としてうまくつながるように、我々も役割をきちんと認識しながら、うまく進めていくことが必要だろうと思っております。以上でございます。

[風見委員長]

ありがとうございます。新市長が三本の柱に市民協働を入れていただいたということで、とても安心すると同時に、身が引き締まる思いです。奥山前市長のときもそうでしたが、市民協働に対して早いスタートを切ったわけで、この委員会の名前も協働まちづくりに鞍替えしました。その実体を伴うのはこれからです。そういう意味で、ネットワークについては、区役所・市民センターその他全部をうまくつなげていくいい時期かという気もいたします。

まちづくりの草の根、やはりこの市民協働で当たり前の話がしっかりと形に見えるためには、相当苦労はいると思いますが、まずサポセンを変えつつ、それをしっかりと区役所全体に広げていければという力強いご発言をいただきました。これから協働まちづくりに変えていくという重要な時期になっていると思いますので、今日お集まりの委員の皆様はそれぞれのトップランナーですので、その気持ちをもう一度引き締めて、この新しい市政に対しても、しっかりと貢献できる委員会になっていければと思います。

それでは長時間になりましたが、今日も大変活発な議論、とてもありがたく思っております。いよいよサポセンが動き出します。皆様にはしっかりと注視していただきながら、進めていければと思います。今日もありがとうございました。では事務局、お願いします。

4 閉会

[事務局（協働推進係長）]

ありがとうございました。それでは以上をもちまして、本日の推進委員会を閉会させていただきます。長時間にわたるご審議ありがとうございました。—了—

〈議事録署名人〉

[委員長]

風見正三

[署名人]

其田雅美